

富山県南砺市での地域包括ケアの取組み まちぐるみで支え合い、愛着があり誇りに思える故郷づくり

- 1、医療崩壊の危機を、多職種連携と人材育成で克服
- 2、目指す社会へ、地域包括ケアシステム構築の取組み
- 3、住民と共に、幸せに生涯を過ごせる協働のまちづくり

医師活動 ; 内科・リハビリ科医師、前南砺市民病院長
医療介護行政 ; 南砺市政策参与、地域包括ケア課顧問
社会福祉活動 ; 社会福祉法人福寿会副理事長
南 眞司 minami.shinji@city.nanto.lg.jp

南砺市と市立医療機関 2008年4月の概要

南砺家庭・地域医療センター
2008年2月
福野病院(50床)を診療所化

井口診療所
2007年3月休止

南砺市民病院 常勤医15名
180床(急性期3病棟144床、
回復期リハ1病棟36床)

公立南砺中央病院 常勤医11名
190床(急性期104床・療養45床、
1病棟41床閉鎖中)

平診療所

利賀診療所

上平診療所



2004年11月、4町4村が合併し南砺市が誕生
公立3病院と4診療所の全て、医師不足で赤字経営
2008年4月、人口約5.7万人、高齢化率約29.6%

琵琶湖に匹敵する面積で約80%が森林。人口は北部に集中、南部は山岳地域で農林業と合掌造り集落やスキー場等の観光資源。富山市・金沢市まで車で40分程

五箇山(相倉・菅沼)の合掌造り集落 世界遺産1995年12月～



演劇の聖地 利賀



ワールドミュージック



井波彫刻



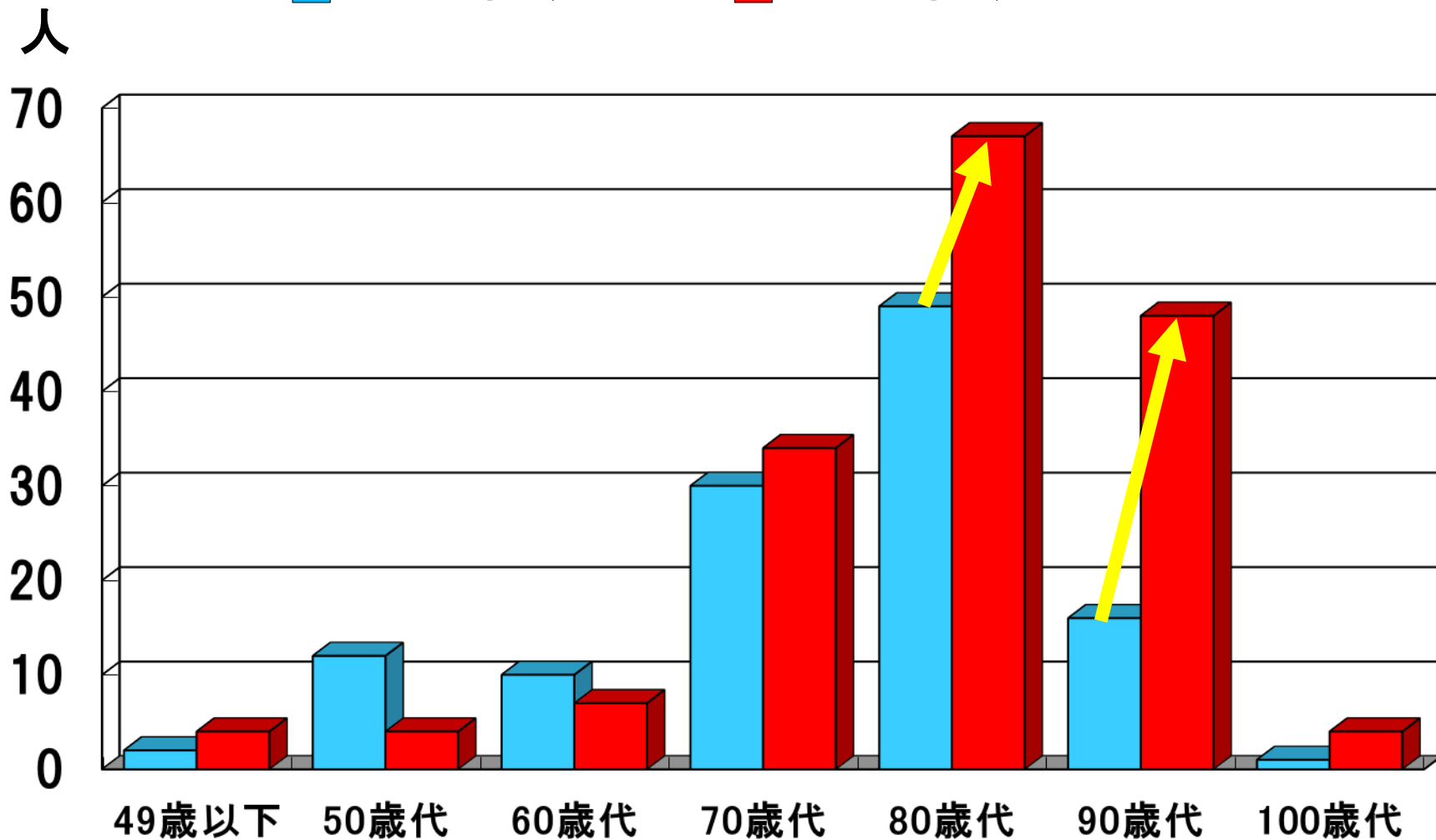
五箇山民謡

皆様なら、どう思いますか？
皆様なら、どうしますか？

- 1、70歳代男性、脳卒中で入院。治療の結果、病気は安定したが、右片麻痺で食事摂取以外介助が必要。**
- 2、一人暮らしの80歳代男性、呼吸苦、胸痛で入院。肺癌の診断で、痛みは治療で改善したが、余命1ヶ月程度と告げられた。**

南砺市民病院 年代別入院患者数比較

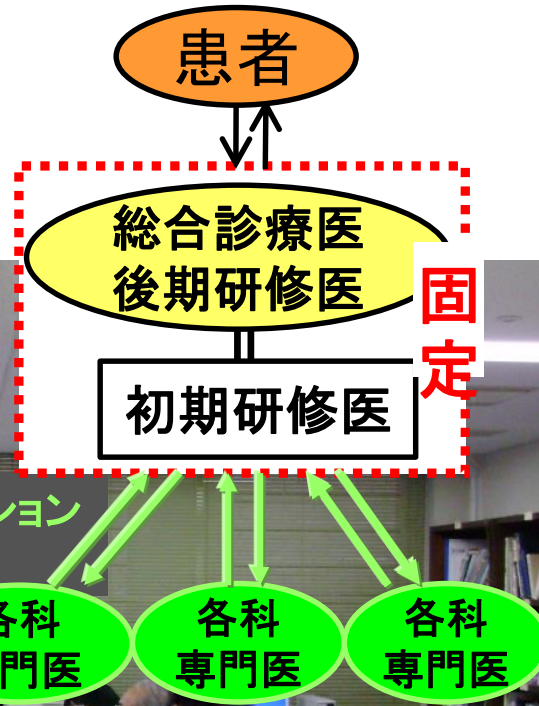
■ 2005年7月1日 ■ 2018年2月20日



診療部カンファレンス

総合診療医固定方式

超高齢患者へ高い診療レベルを目指し、カンファレンスや勉強会を頻繁に行っています。担当症例以外の多くの知識を得ると共にコミュニケーション能力や人格・社会性向上にも寄与しています。



- 医局会 (全科)
- 毎週月曜8:00~
- 内科症例検討・抄読会
- 毎週火曜17:30~
- 医局症例検討会 (全科)
- 毎週水曜8:00~
- 内科新患カンファレンス
- 毎週木曜13:30~
- 外科術前カンファレンス
- 毎週金曜16:30~



高齢者には多職種連携（チーム医療・統合ケア）が必要

**疾患・障害・生活等の課題解決へ、Dr. Ns、リハビリ、栄養士、
薬剤師、介護士、MSW等専門職機能の連携が必要で効果的**



嚥下性肺炎プロジェクトチーム

2000年度、公立井波総合病院(現、南砺市民病院)調査 障害高齢者の退院後希望と処遇結果、及び影響する因子

**障害高齢者の居場所の選択は自宅
選択(自律)を支援する課題解決策は**

- 対象者 : 159名
- 平均年齢 : 82歳 (60~101歳)
- 性別 : 男性 70名 (44%)、女性 90名 (56%)
- 認知症の有無 : 認知症 110名 (69%)、無し 50名 (31%)
- 障害の状態 : 寝たきり103名 (64%)、虚弱 56名 (36%)
- 本人の退院後の希望 : 自宅 126名 (79%) 施設 1名 (1%)
不明 33名 (20%)
- 家族の退院後の希望 : 自宅介護 99名 (62%) 施設入所 59名 (37%)
- 処遇 : 在宅復帰 105名 (66%) 施設入所 55名 (34%)

- 年齢(84歳以下/85歳以上) 1.2
- 性別(男性/女性) 2.5#
- 障害(虚弱/寝たきり) 58.3***
- 家族意志(介護する/できない) 63.1***
- 介護者の年齢(64歳以下/65歳以上) 18.1***

**なぜ女性の希望が
叶えられないのか**

「本人の選択(自律)と自立支援」に「本人の参加」は必須

患者・家族のQOL向上へ、多職種で課題解決型カンファランス



2010年9月10日 第3病棟

課題解決の場では情報共有する内容の設定(本人の意向)が大切

在宅医療の原点となった事例



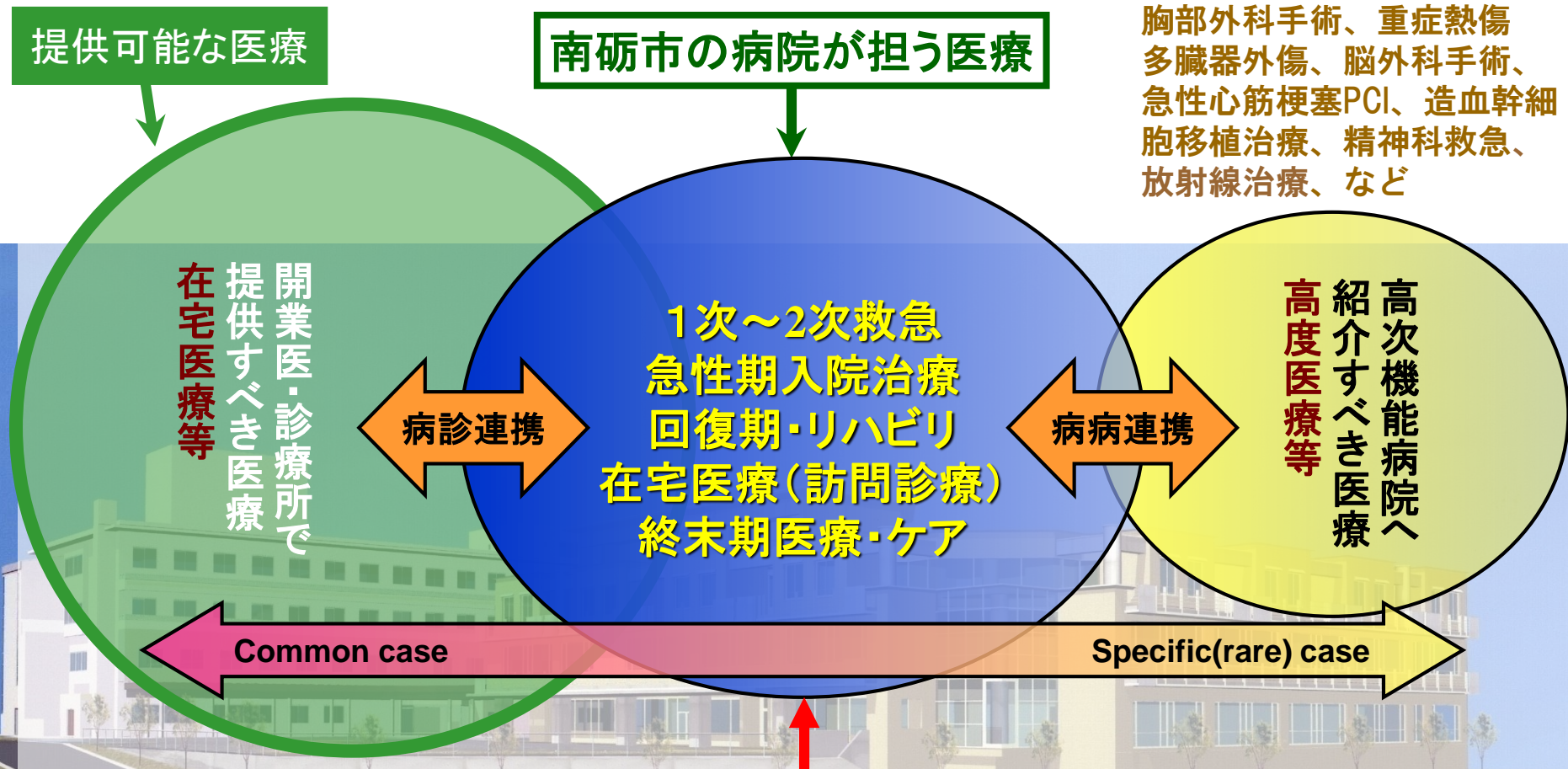
2001年2月25日
三国かに食い旅行



2001年7月25日
自宅への訪問診療

地域完結型医療の構図（地域医療構想）

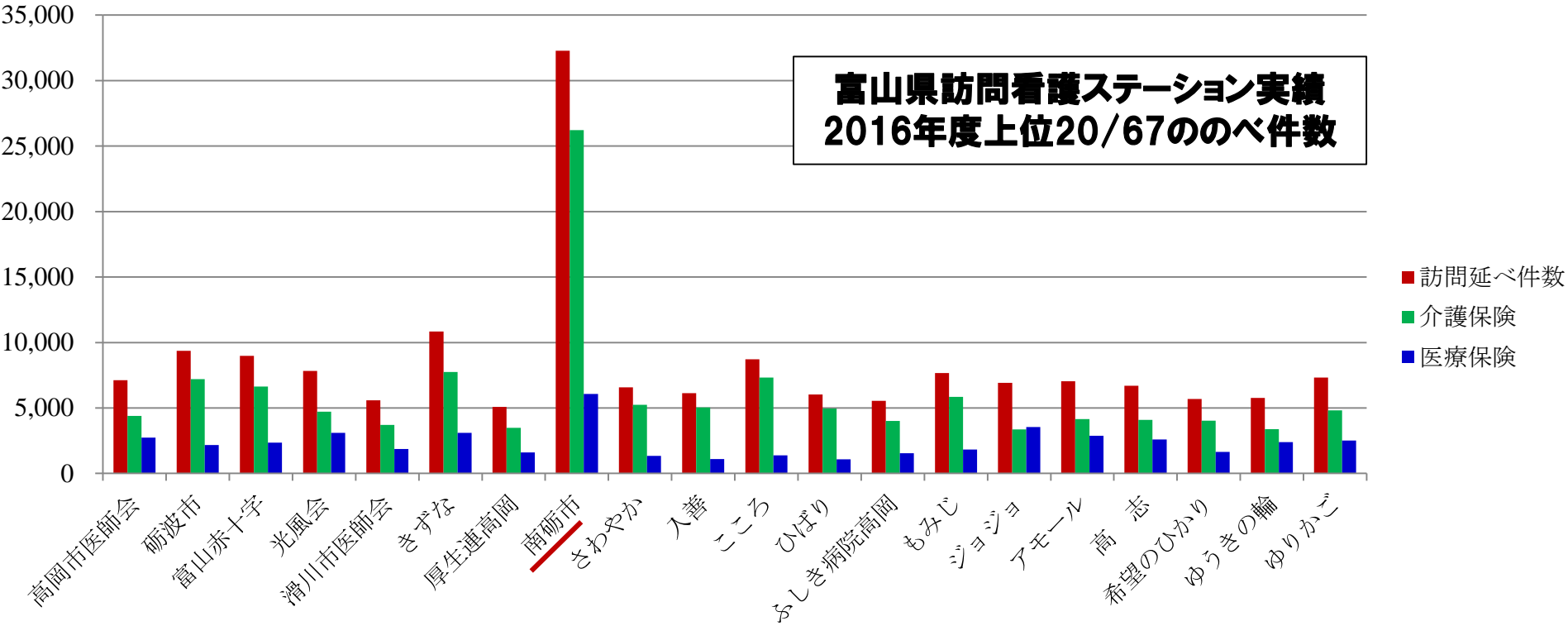
病病・病診連携と統合ケアの構築が必要



患者・家族のQOL向上へ、多職種で疾病・障害・生活課題の解決と支援
脳卒中、認知症、嚥下性肺炎、終末期等へのチーム医療体制構築

在宅医療；訪問看護師・リハビリ職は市民病院と人事交流

富山県訪問看護ステーション実績
2016年度上位20/67ののべ件数



南砺市介護福祉支援センター

訪問看護ステーション



看護師18名



PT・OT・ST 計9名

ホームヘルプ
ステーション

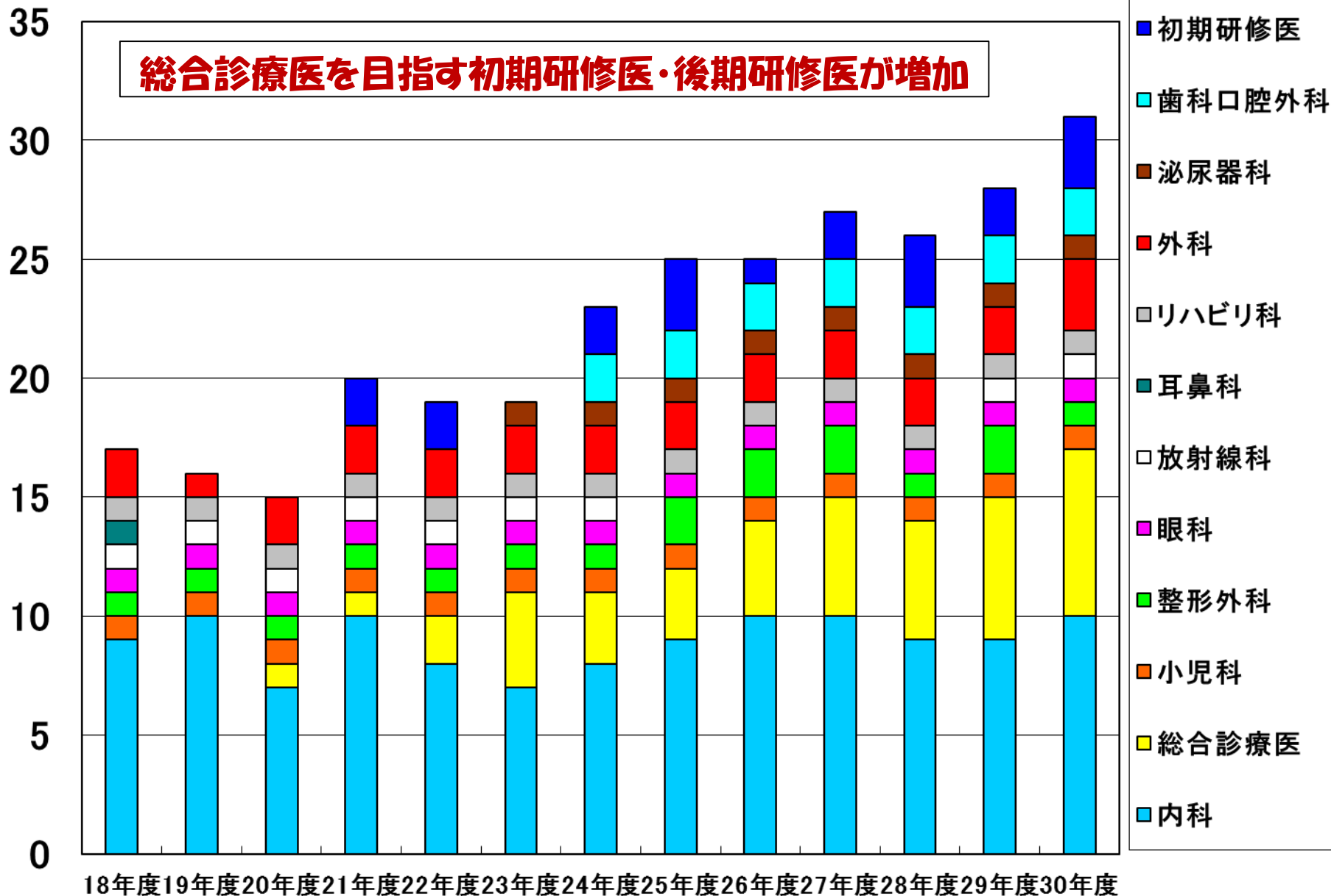


在宅介護支援
センター



ケアマネジャー9名

南砺市民病院常勤医の推移(人)

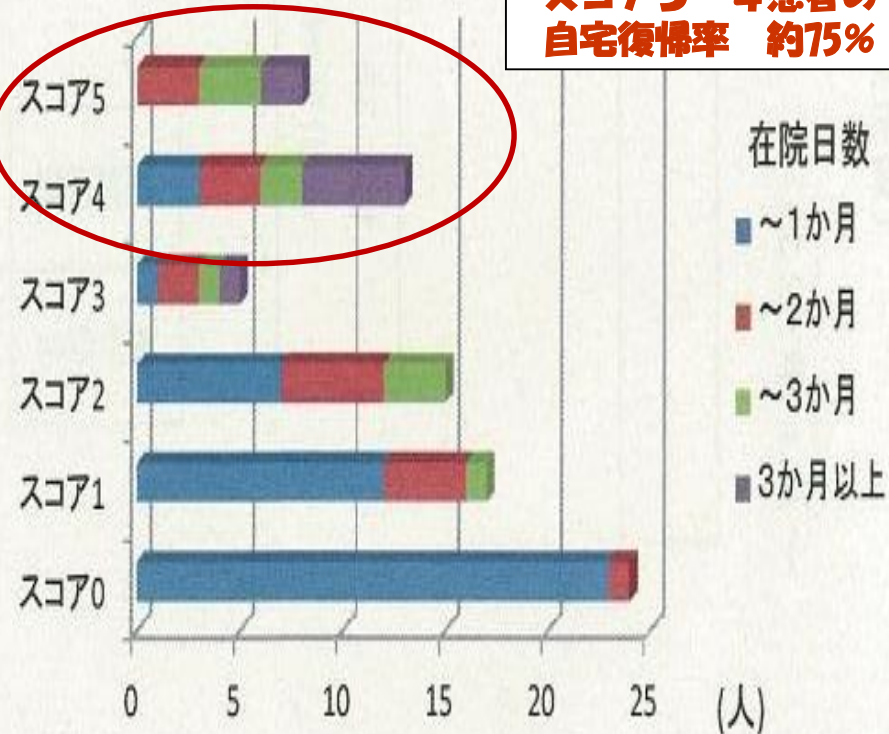


2010年度砺波厚生センター調査 脳卒中入院患者の重症度、退院先

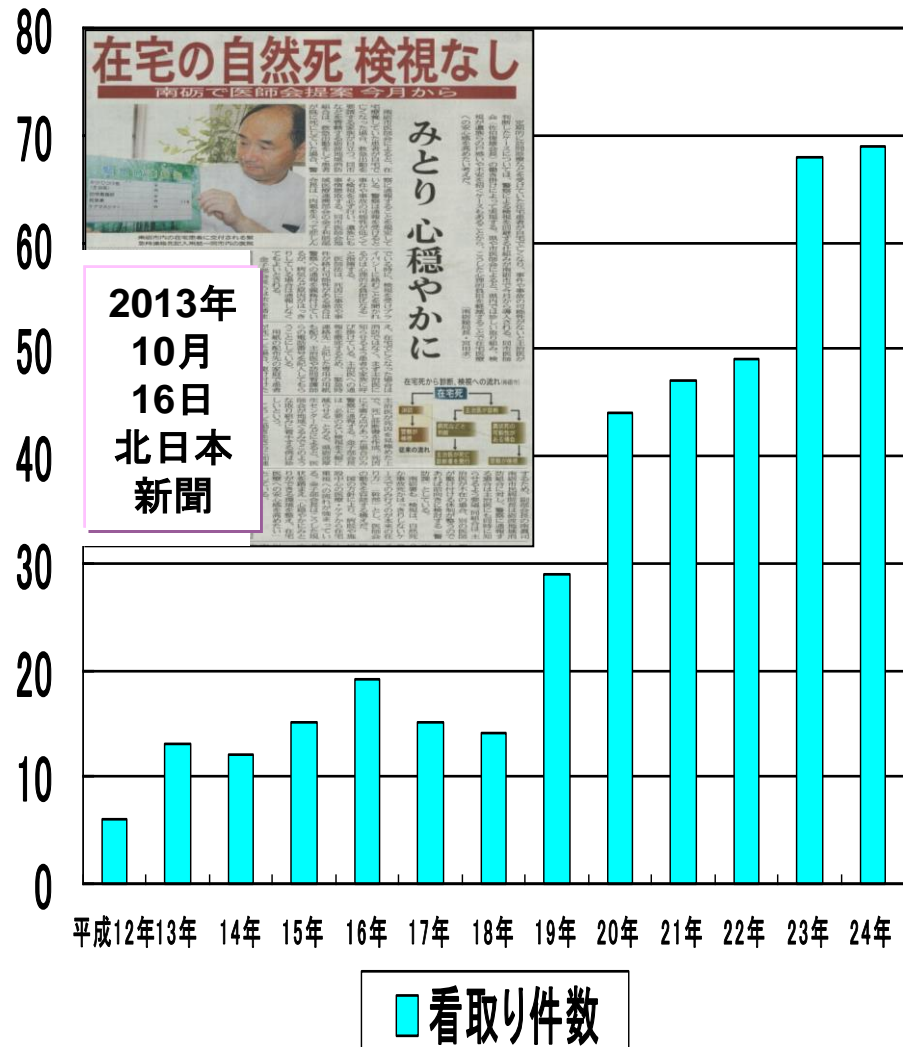
南砺市民病院⇒自宅退院数

スコア5: 高度の障害、寝た切り
 スコア4: 比較的高度の障害
 スコア3: 中等度の障害
 スコア2: 軽度の障害
 スコア1: 症状あるが障害なし

スコア5・4患者の
自宅復帰率 約75%



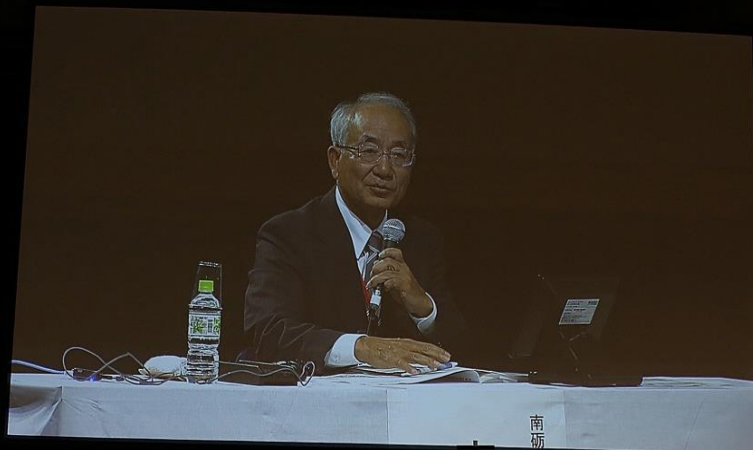
南砺市訪問看護ステーション 2000年~2012年の 在宅看取り数(人)の推移



介護保険推進全国サミットinなんと

開催市からのメッセージ 2013年10月18日

多職種連携で結ぶ家族の絆と地域の絆
一人ひとりの人生を支える地域包括医療・ケア



取り組みでの成果

- 1、超高齢者を支える総合診療医・看護師・リハビリ等の医療専門職を確保
- 2、患者・家族のQOL向上を共通認識とし、病院内でチーム医療を提供
- 3、医療必要度の高い患者を、在宅で多職種医療チームが家族などと支援

一人暮らし事例

生活状況

- ・70歳半ばで妻が死亡、一人で家事や畑。息子は関東在住。
- ・1～2年後、もの忘れ外来で軽度認知症。
- ・2014年始め、骨折で入院。被害妄想で県外に転出。

家族がいる方は勿論、一人暮らしの方も自宅での生活を希望されます。顔見知りに加え、人生を共に歩んだ家族の思い出があり、最も大切に安心できる所です。
その場所で穏やかに暮らし、人生を仕舞いたいと希望されます。

- ・この思いは わがまま？ 贅沢でしょうか？
- ・この思いが叶わない社会って？

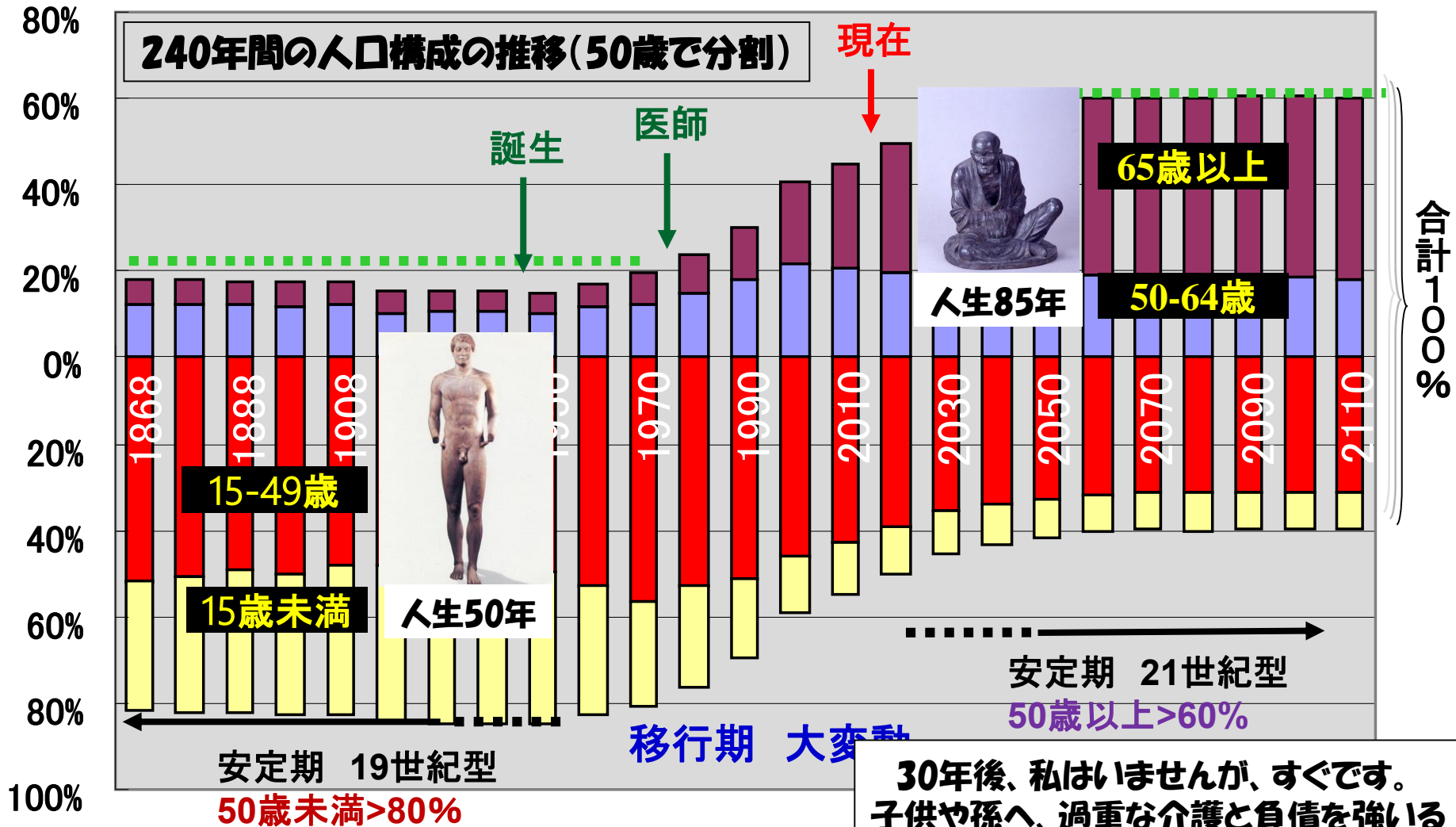
仕方ない・無理だ・諦めるか この思いが叶う社会へ取り組むか

富山県南砺市での地域包括ケアの取組み
まちぐるみで支え合い、愛着があり誇りに思える故郷づくり

- 1、医療崩壊の危機を、多職種連携と人材育成で克服**
- 2、目指す社会へ、地域包括ケアシステム構築の取組み**
- 3、住民と共に、幸せに生涯を過ごせる協働のまちづくり**

私の目標 「南砺市が長寿社会になる」

長生きの社会(長命社会)になったが、そこそこ幸せな社会(長寿社会)か？



30年後、私はいませんが、すぐです。子供や孫へ、過重な介護と負債を強いる社会を残さないために、我々のためにも地域包括ケアシステムの構築が必要不可欠

自己紹介（1949年2月生、69歳 男性）

- 1964年4月 国立富山工業高等専門学校入学
- 1967年4月 金沢大学医学部入学
- 1977年4月 金沢大学医学部第3内科入局
- **1983年4月 井波厚生病院、内科医長着任**
- **1984年 医学博士号取得「気管支喘息」**
- **1988年頃 糖尿病等保健活動への取組み**
- **1992年頃～ 脳卒中・リハビリへの取組み**
- **2000年頃～ 認知症への取組み**
- **2006年頃～ 終末期医療への取組み**
- **2007年10月 南砺市民病院院長就任**
- **2009年度 初期研修医育成開始**
- **2010年度 総合診療医・家庭医育成開始**
- **2014年3月 院長定年退職**
- **4月 地域包括ケアシステムの構築**

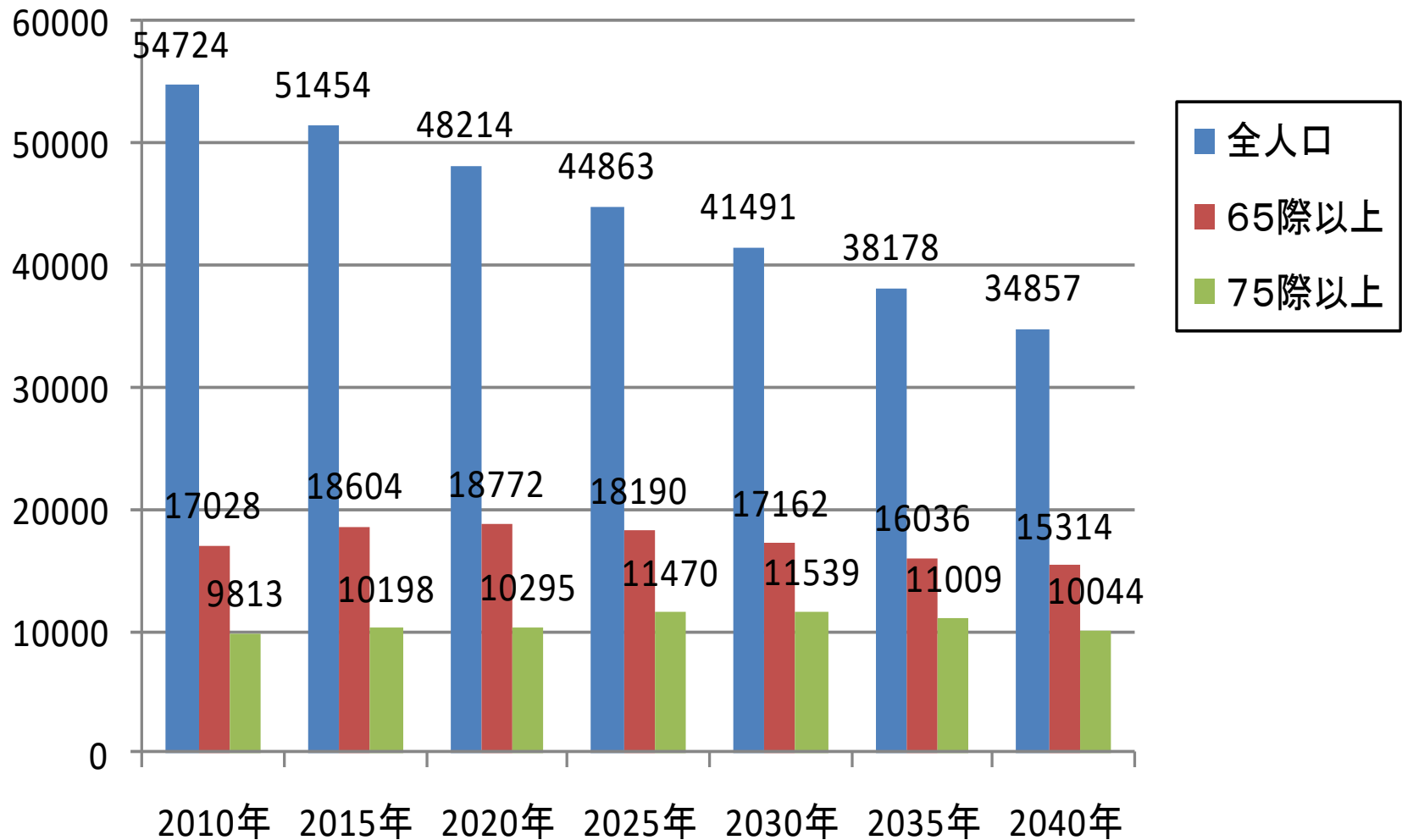
南砺市の「5つのまちづくり規範」

1. 幸せに生涯を過ごせる協働のまちづくり
2. 健康寿命を伸ばし、互いに支え合い、独居・老々世帯も安心して暮らせるまちづくり
3. 地域包括医療・ケア（地域包括ケア）で家族の絆と地域の絆を結ぶまちづくり
4. 介護が必要になっても、家族と共に安心して暮らせ、自宅で穏やかな死が迎えられるまちづくり
5. 一人暮らしの認知症の方が笑顔で暮らせるまちづくり

2014年11月 南砺市長 田中幹夫

南砺市の人口推計(国立社会保障・人口問題研究所)

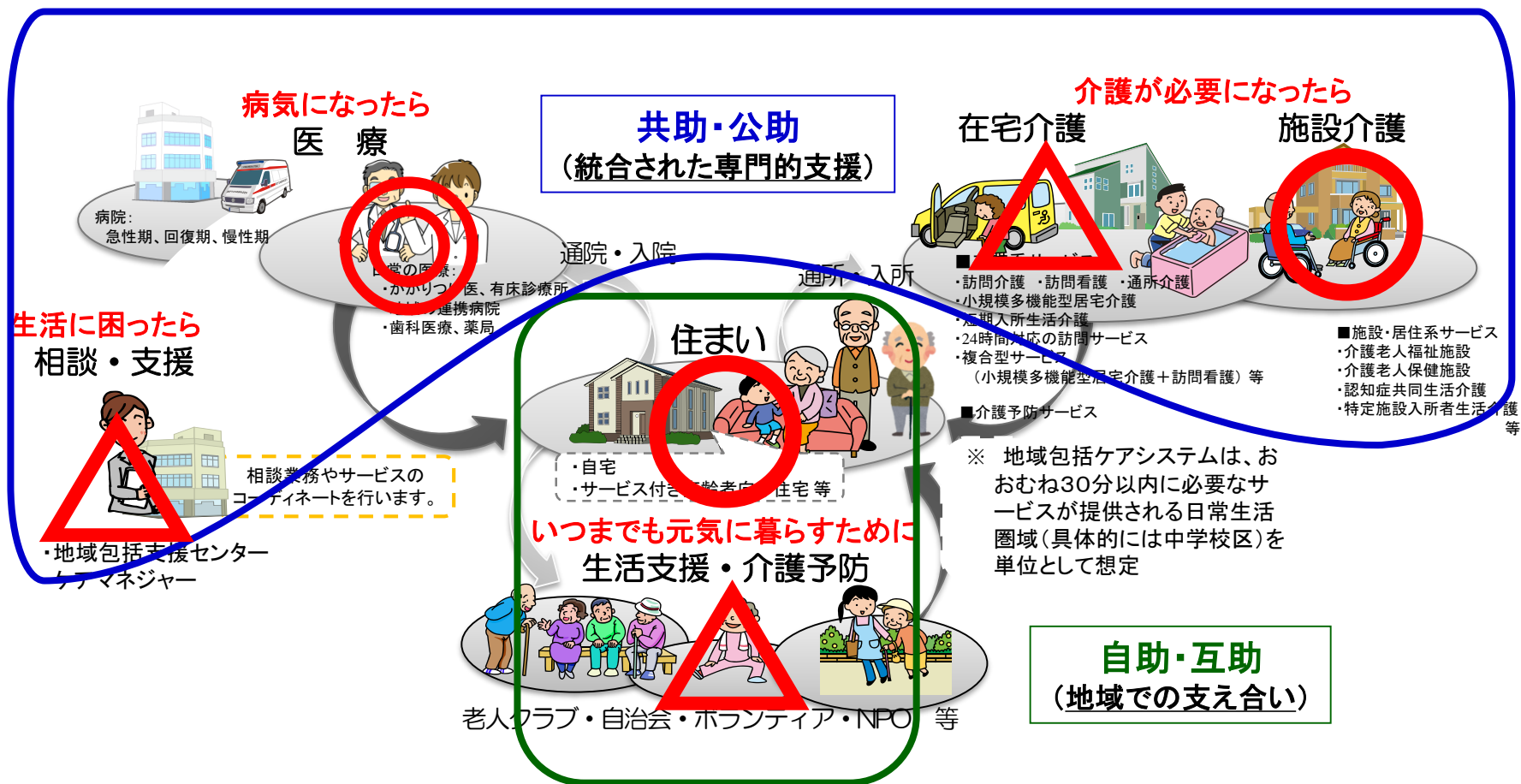
64歳以下人口の減少で、独居・老々世帯が増加
家族による生活支援や介護機能が顕著に低下



2014年度、南砺市の地域包括ケアシステムの状況

相談・支援窓口、在宅介護と生活支援・介護予防の強化が必要

地域包括ケアシステム（安心して暮らせるまちの姿・まちぐるみで支え合う仕組み）



医療・介護連携の拠点

井波高跡地 市ケアセンター起工



【南砺】 南砺市の医療・介護の連携拠点となる地域包括医療ケアセンター(仮称)の起工式が3日、同市北川(井波)の旧南砺総合高校井波高跡地の建設地で行われた。来年1月のオープンを目指す。

鉄骨2階建て約2460平方メートルで、福野、井口両地域に分散していた市地域包括医療・ケア局の関係課と市地域包括支援センターを集約。隣接する南砺市民病院や訪問看護ステーションとの連携を強化し、在宅医療や介護のさらなる

充実を目指す。井波保健センターも入り、健康づくりか



起工式の神事に臨む田中市長(左)

**保健・医療・介護・福祉
組織と業務現場の統合**



南砺市民病院隣に地域包括ケア実践の拠点構築
2016年2月 地域包括ケアセンター起工式
2016年12月 センター完成竣工式
2017年1月4日 地域包括医療ケア部業務開始

在宅介護機能強化と自立支援型ケアマネジメントの構築

介護職育成と定期巡回介護サービス構築



2015年度 介護職員初任者研修15名終了

南砺市地域包括ケアセンター 保健・医療・介護・福祉の統合

地域ケア個別会議：相談・支援機能の連携



医療職等の助言者
医師、訪問看護師、
PT・OT、社会福祉士等

地域包括支援センター職員等

2016年4月開始
ケアセンター多目的研修室

自立支援型ケアマネジメント

「何をしてほしいか」

⇒「何ができるようになりたいか」

自立(自律)支援へ情報共有し、
課題分析、解決策立案と実行

24時間巡回型訪問介護



南砺市定期巡回型訪問介護センターが併設された「へんろサービスセンター」。

右前は田中理事長

南砺市では、北部定期巡回

平野部全域をカバー

南砺市の社会福祉法人福寿センターと名付けた福野地会(理事長・田中幹夫市長)の新たな24時間巡回型訪問介護サービス事業所は、口地域でサービスを展開。当初は利用者10人だったが、16年度末には24人が月間約1500回利用するまでに拡大した。近年は福光地域の一部にも出向ようになった。二丁の増大を福光・城端両地域を対象とした事業として進めようとしている。

需要増 福光に事業所

このサービスは、ホームヘルパーが1日に数回、介護が必要なお年寄りの自宅を訪れ、食事や排せつ・入浴の介助をするほか、体調の急変時には早朝や深夜でも時間を問わずに駆けつけ、介護の要度が高くなると、一人暮らしなど家庭の介護力が低い人の住宅生活支援に重要なサービスと位置づけられる。南砺市では、北部定期巡回

南砺地域包括ケア推進

南砺市は、介護が必要なお年寄りを在宅で暮らせるためのケアする、24時間地域巡回型訪問介護サービスの新たな事業所と、「こころ医療センター」がオープンした。同市は介護と医療サービスを一体的に提供する「地域包括ケア」を積極的に進めており、子どもからお年寄りまで全世代型ケアへの進化を目標とする。

2016年4月 福野・井波・井口地区開始
2018年4月 福光・城端地区開始

在宅医療・在宅介護の連携と機能強化

困難事例を通し、各専門職の課題解決能力向上と連携で、在宅生活の限界点を改善

参加者：開業医・病院勤務医、歯科医、薬剤師、保健師、訪問看護師、リハビリ(PT・OT・ST)、歯科衛生士
介護支援専門員、社会福祉士、訪問介護士、地域包括支援センター、保健所、市社会福祉協議会など



医師会、訪問看護ステーション、公立病院の連携

- 1) 24時間・365日の診療や看取りへの支援**
- 2) 訪問診療材料の管理への支援**
- 3) 急性増悪時や緊急避難的入院の受け入れ**

南砺市医師会地域医療連携部会

2014年度、地域包括ケアセンター
第3水曜日、午後7時30分より事例を
グループワークし、各自解決策を発表

在宅医療・介護連携の構築へ、専門職の研修
地域リハビリ研修会 2002年度開始、2018年9月 第183回開催



住民・専門職・行政職へ、地域包括ケアの啓発
第16回 地域リハビリ市民フォーラム
2018年3月10日 参加者約200名
**「介護が必要になっても、家族と共に安心して暮せ
自宅で穏やかな死が迎えらるまちづくり」**

開催場所：南砺市民病院リハビリセンター

開催日時：毎月第1月曜日午後6時～7時30分

研修内容：講演、パネル・事例検討

参加職種：医師、看護師、保健師、ケアマネ
リハビリスタッフ、介護福祉士、
社会福祉士、精神保健福祉士等

参加人数：毎回約50～80名の参加



満足で穏やかな人生の終いを在宅医療・介護で支援

一人暮らしの肺癌末期の方の 「自宅で過ごしたい」を叶えるために 定期巡回・随時対応型訪問介護看護



人生の終いを自宅で過ごし、たばことコーヒーを楽しみたい。の希望に答える。

定期巡回サービスを準備し、2017年3月6日病院を退院。医師、看護師、介護職や訪問入浴と遠方の息子さんや近所の方等も顔を出された。満足な時間を過ごされ、思い出の家で静かに最期を迎えられた。

人生の終わり頃、どこでどの様に過ごしたいかを、普通に言えて、「お世話になって、ありがとう」が叶う社会。

3月14日火曜日(亡くなる前日)
コンビニで訪問リハに連れられ買い物、自分で選んで楽しい事ですね。好物は焼肉弁当でした。
(ご本人の了解を得て、介護支援専門員が撮影)

シンポジウム 2017年11月23日 東京ビックサイト
在宅医療・在宅介護の連携構築に向けて
パネリストとして田中南砺市長、矢島南砺市医師会長

第13回 在宅医療推進フォーラム

～平成30年度在宅医療・介護連携推進事業の完全実施に向けて～
主催：国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団



在宅医療・介護連携の課題と方向性

- 1、定期巡回サービス等を担う介護職の確保と育成
- 2、在宅医療・介護の情報共有へ、ICTシステムの導入
- 3、在宅薬剤管理と在宅栄養管理の拡充

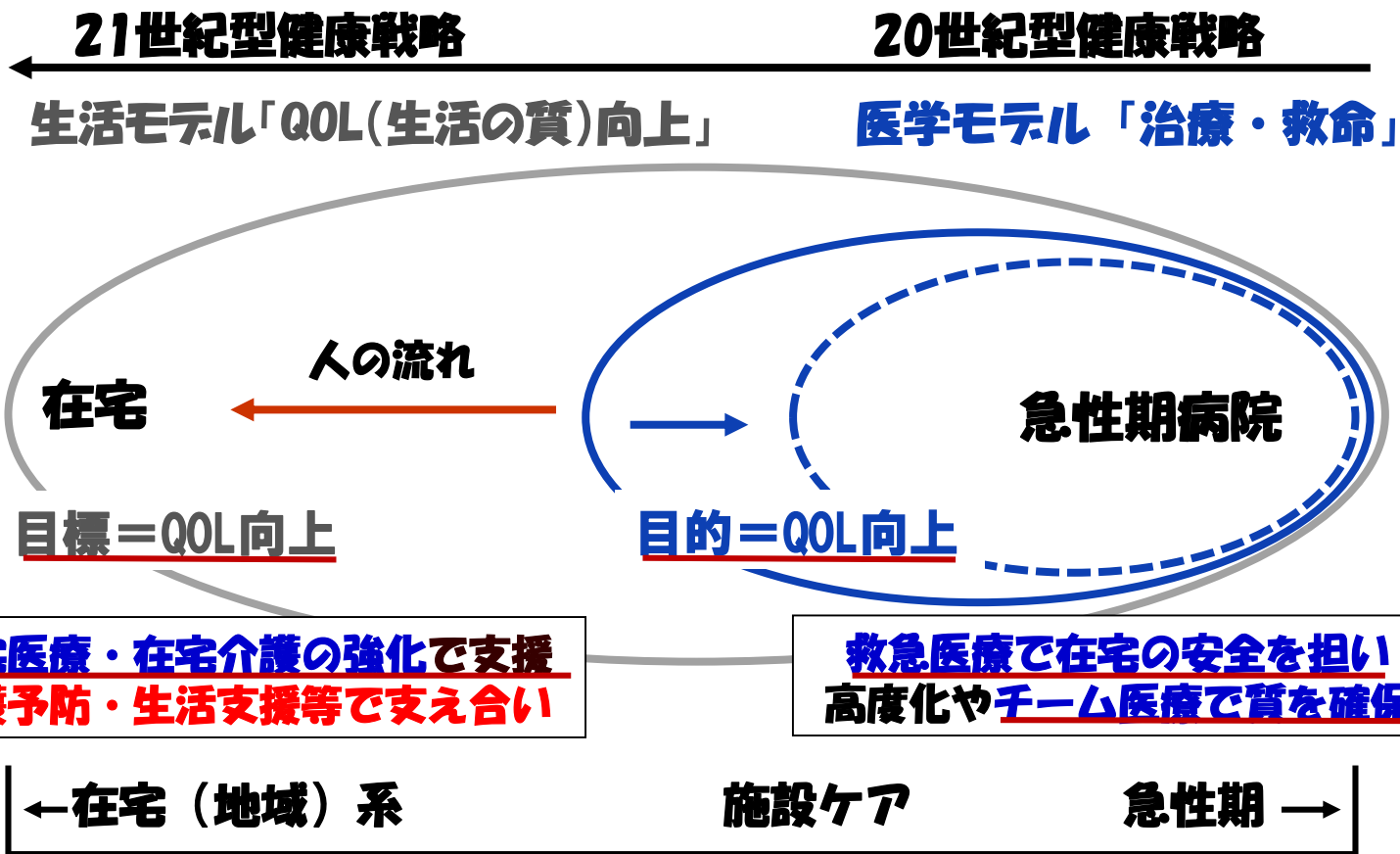
取組みでの成果

- 1、本人の意向の尊重と自立支援機能の向上
- 2、家族だけに依存しない在宅支援体制の整備

富山県南砺市での地域包括ケアの取組み
まちぐるみで支え合い、愛着があり誇りに思える故郷づくり

- 1、医療崩壊の危機を、多職種連携と人材育成で克服**
- 2、目指す社会へ、地域包括ケアシステム構築の取組み**
- 3、住民と共に、幸せに生涯を過ごせる協働のまちづくり**

地域包括ケアシステムの方向性



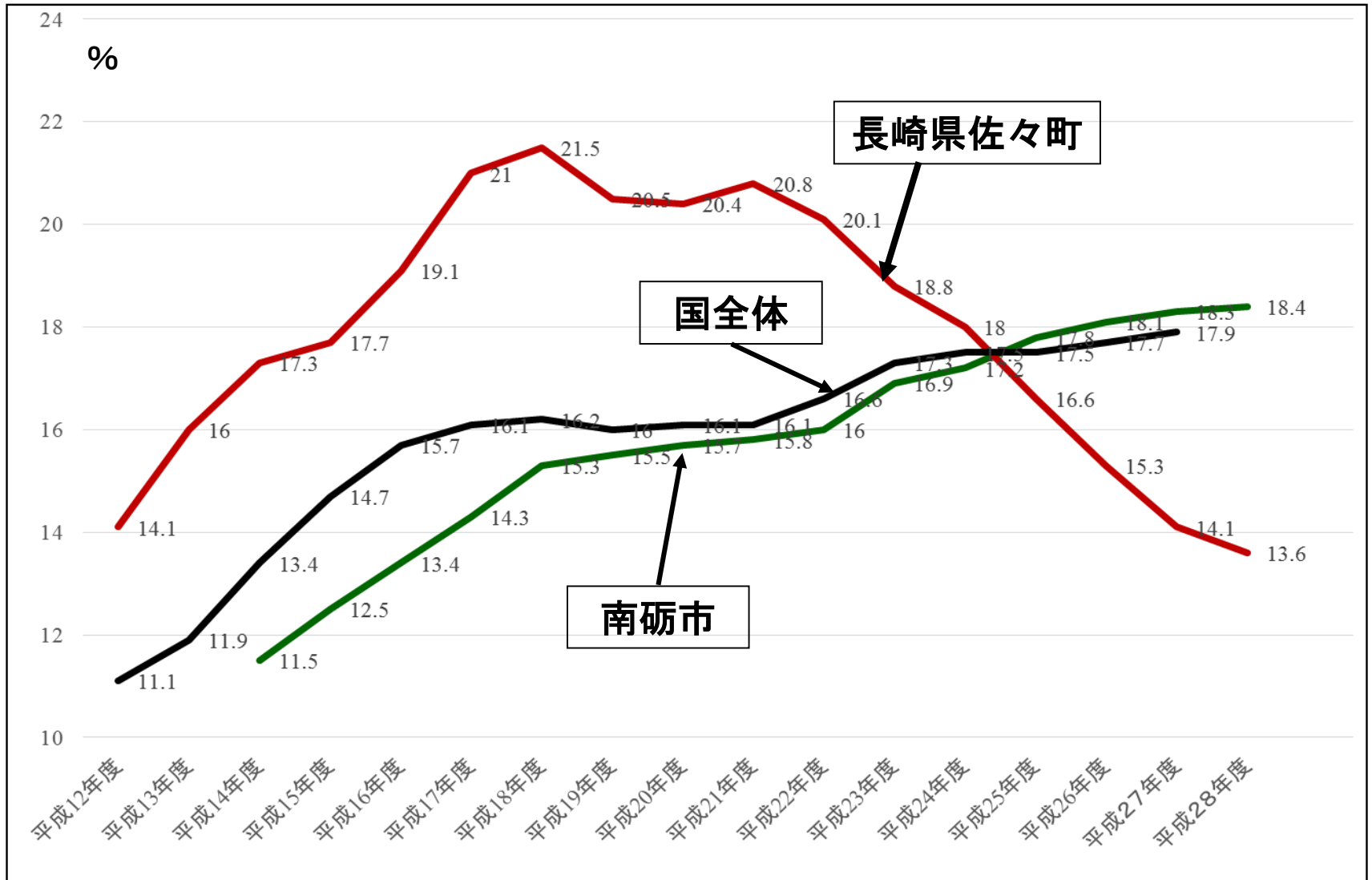
**21世紀型健康戦略には、QOL向上を目指す医療と在宅支援力が必要
安全は医療・介護等が担い、安心と幸せは住民の支え合いで担う**

南砺市の「5つのまちづくり規範」

1. 幸せに生涯を過ごせる協働のまちづくり
2. 健康寿命を伸ばし、互いに支え合い、独居・老々世帯も安心して暮らせるまちづくり
3. 地域包括医療・ケア（地域包括ケア）で家族の絆と地域の絆を結ぶまちづくり
4. 介護が必要になっても、家族と共に安心して暮らせ、自宅で穏やかな死が迎えられるまちづくり
5. 一人暮らしの認知症の方が笑顔で暮らせるまちづくり

2014年11月 田中南砺市長 規範を策定

介護保険認定率の推移：富山県南砺市 長崎県佐々町 国全体

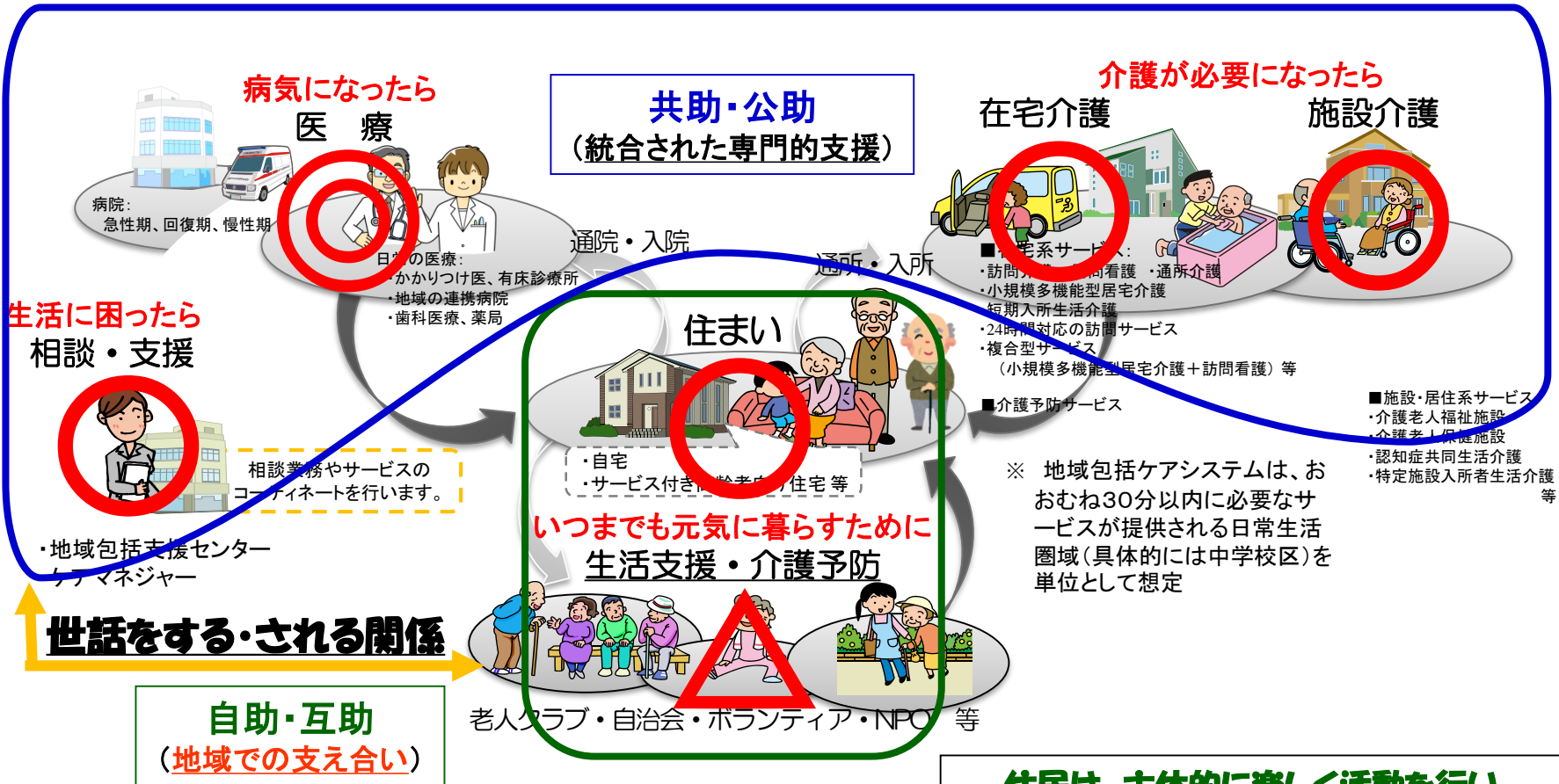


南砺市の課題：虚弱高齢者の増加 介護予防と自立支援型ケアマネジメント強化

2018年度、南砺市の地域包括ケアシステム

生活支援・介護予防の強化と自立支援型ケアマネジメントとの連携

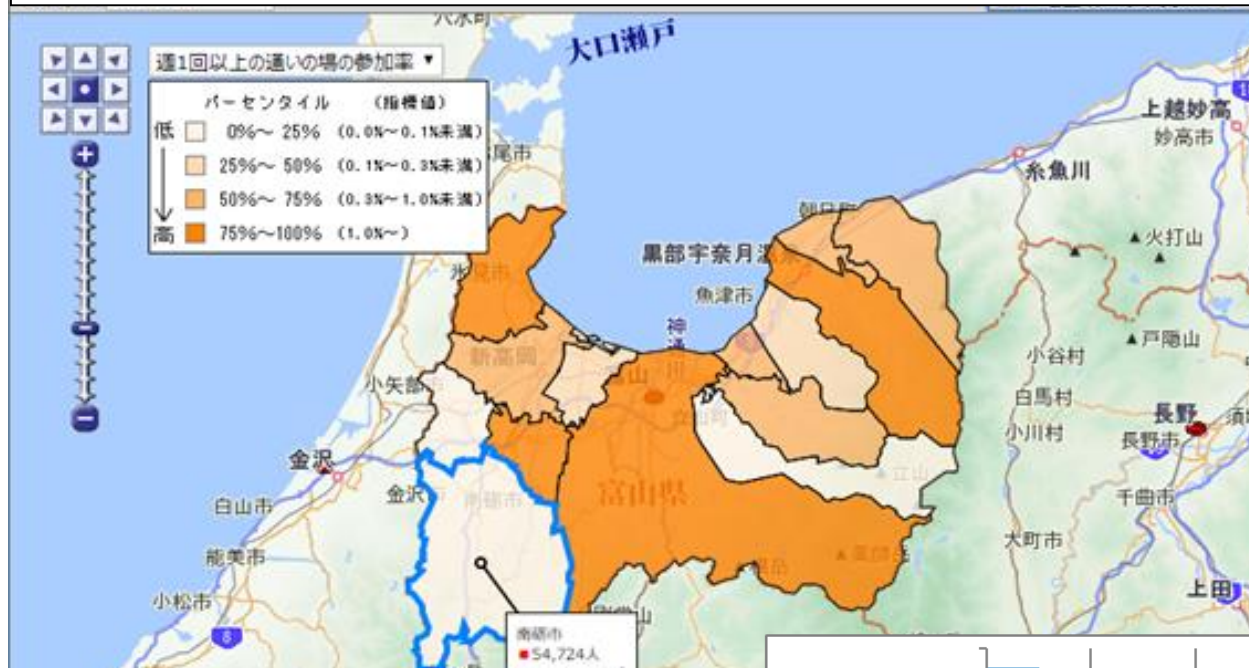
地域包括ケアシステム（安心して暮らせるまちの姿・まちぐるみで支え合う仕組み）



住民は、主体的に楽しく活動を行い
 役割りをつながりを作り、健康寿命を伸ばす
 専門職等は側面から自立を支援する

週1運動サロンを100ヶ所の町内や集落に拡大 「地域での支え合い・介護予防」

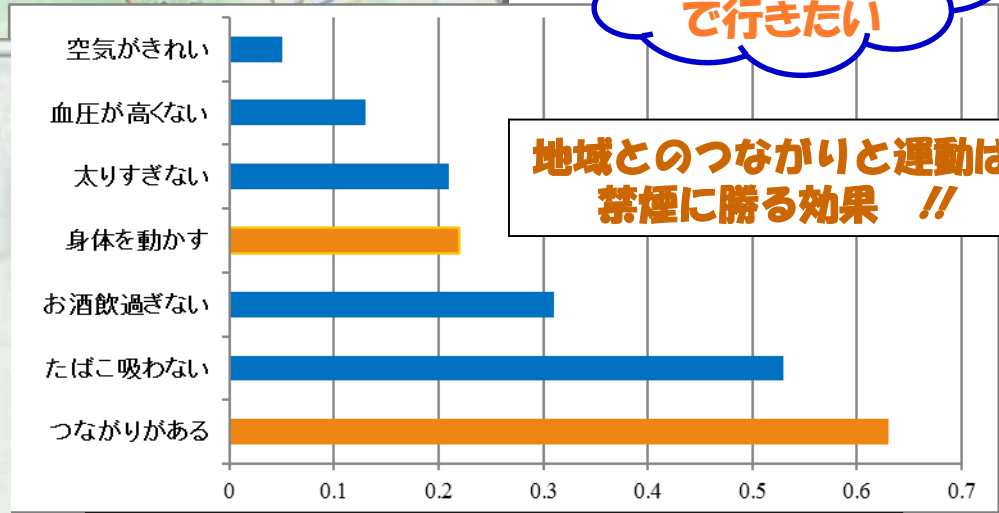
週1運動サロン参加率 富山県市町村別、2015年度見える化システム



ずっと家で暮し続けたい

買い物に出かけたい

お風呂やトイレは自分で行きたい



地域とのつながりと運動は禁煙に勝る効果 !!

健康寿命と生活習慣や社会環境との関連性

富山新聞、2017年9月1日

生活が不便でも穏やかで幸せな暮らし

在宅を支える

とらなみ野ケア事情

核家族化や若年層の流出、非婚化…。家族の形の変化とともに、1人暮らしや高齢者のみ世帯が増え、家庭の介護力が低下してきた。

そうした弱点をカバーする役割を担うのが、介護保険の24時間地域巡回型訪問介護だ。1日複数回の定期訪問にとどまらず、体調の急変時などに随時出向く。南砺市では4月から、社会福祉法人福寿会が導入した。探算性や人材確保にネックがあるため、法人理事長の田中幹夫市長の強い働き掛けにより、実現した経緯がある。

現在、福野や井波、福光地域の70〜101歳の16人が利用。このうち1人暮らしが6人になり、高齢者夫婦のみ世帯も目立つ。

今日1日に80歳で亡くなった福野地域の女性も1人暮らしだった。

要介護度は段階別で3番目に重

◇ 2 ◇

い「3」。5年ほど前から認知症が進んだ。横浜市に住む長男(54)は徘徊による事故を危惧し、携帯電話を持ち歩くことで行動状況が

入所の申し込みをし、施設が空くまでの間は、ヘルパーの訪問やケアサービスの利用回数を増やして支えることにした。

12月1日午後7時半すぎ、眠拍た。夜間もなく、顔が真っ青な状態でベッドに横たわっているのを、ヘルパーに入り、病院へ運

24時間の安心目指す

分かるサービスやテレビ電話を活用し、遠隔地から見守ってきた。

「24時間地域巡回型」事業所オープンとともに、利用を申し込んだ。朝や夕方、夜などにヘルパーが訪れ、着替えや食事の介助、洗濯などをした。日曜日や祝日、年末年始に休む一般の訪問介護に比べ、訪問回数が格段に増えた。

最新技術を駆使した長男による見守りと、きめ細かな介護サービスの組み合わせで、1人暮らしの安全性が高まった。

それでも認知症は悪化し、10月には近所の家に駆け込んだり、他人の家のトイレに入りしたりする行動が出てきた。11月初旬、担当のケアマネジャーや民生委員、長男らを支えて話し合った。施設

巡回訪問で異変察知



2016年12月28日 北日本新聞

80歳、女性、一人暮らし、要介護3、認知症
定期巡回サービスを利用し、遠方の長男や民生委員
などの協力のもと、自宅で最期まで暮らせた。

地域に理解と協力がなければ、認知症で生活が困難
な高齢者の、自宅で暮らす願いは叶わない。認知症
を知り、地域で支える活動を、南砺市全域の全世代
に広める必要がある。

た可怖にしていて。別の女性事務所のことをテリたこととどこまでついたら、という人々命綱業所長訪問看在宅居も踏手などでボート

南砺市全域の全世代で認知症を知り支える活動 「地域での支え合い・生活支援」



2002年度開始
コントDE健康「認知症」の巻



2015年度開始 認知症高齢者見守り模擬訓練

2016年度開始 大鋸屋ひらすんま会
住民主体の週1回B型通所サービス



かわいい訪問者

認知症サポーター養成講座
2015年度 南砺市全小学校・中学校で開始



認知症の人は「困った人」
ではなく「困っている人」

認知症の人には温かい支えが必要です。支え合う暮らしやすいまちは、皆さんの温かい思いと行動で作れます。

世話する人健康寿命長く

3年後も介護不要87%

介護などで人の世話をしているお年寄りは健康寿命が延びる可能性が高いことが、南砺市や富山大附属病院による高齢者調査で分かった。2014年に元気だった人の3年後の健康状態を確認したところ、人の世話をしている人は、していない人に比べ、介護の必要がないレベルを維持している比率が高かった。医療関係者は、人の役に立つことが生きがいとなり、体調に好影響を与えたとみる。(南砺総局長・宮田求)

南砺市と富山大附属病院 高齢者調査

この調査は2014、17年の2回行い、南砺市内の65歳以上の人に生活や身体状況、自立の度合いなどを尋ねた。14年に介護の必要がなかった人のうち3年後の状況を追跡できた7405人について分

析。世話をする相手がいらないかで、健康度合いに差が表れたか確かめた。その結果、世話をする相手がいる6340人のうち介護が必要でない状態を維持していたのは87%だったのに対

し、世話をする相手がいらない1065人では71%にとどまり、16%差があった。一方、介護が必要になった人の比率は世話をする相手がいるケースで9%、いないケースで20%と、2倍の開きがある



夫の食事の介助をする女性(右)。世話をする相手がいる人は健康寿命が延びる可能性が高いことが南砺市の調査で分かった。同市内



ズーム 健康寿命 介護を受けたり寝たきりになったりせずに日常生活を送れる期間。厚生労働省によると、2016年は男性72.14歳、女性74.79歳。富山県は男性が72.58歳、女性が75.77歳で、それぞれ全国8位と4位だった。

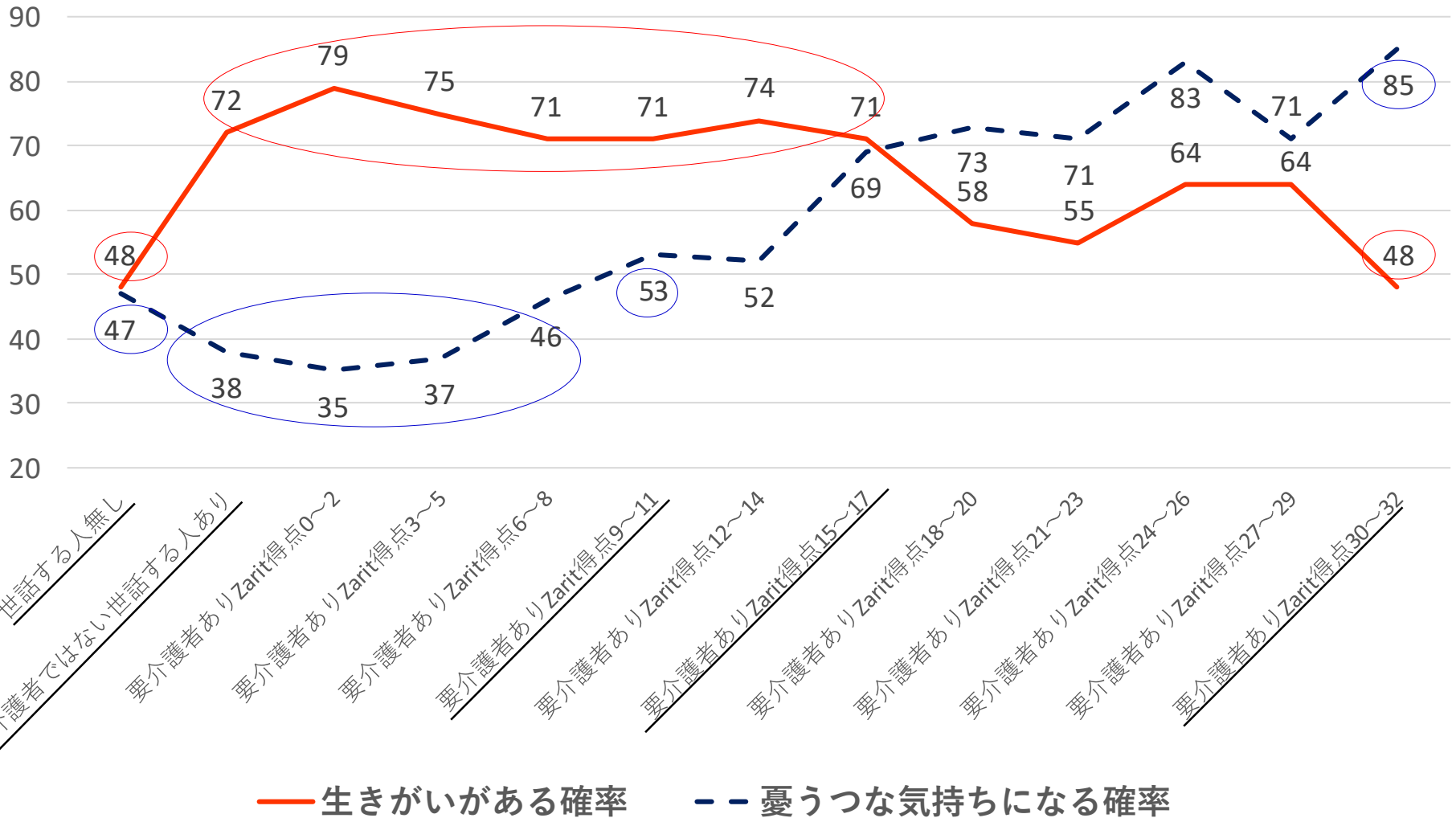
平成26年の調査時点で健康な高齢者で、看病や世話をしてあげる相手がいる人は、性・年代・IADL・知的能力・健康度・友人知人と合う頻度等を調整しても、平成26年の再調査時点で、健康介護が必要+死亡以外である確率が、1.405【1.146~1.724】P≦0.001と、「ない」人に比べ有意に高かった。

「情けは人のためならず」が科学的に証明されたようだ。

世話の有無・介護負担度と生きがい・憂うつ気分との関係

- ① 「介護者ではない世話する人あり」とZarit17点以下までが「生きがい」が高い。
- ② 「世話する人無し」はZarit30点以上と「生きがい」で同水準。
- ③ 憂うつな傾向(この1か月間、気分が沈んだり憂うつな気持ちになったことがある)はZarit9点以上で、「世話する人無し」以上に上昇。

%



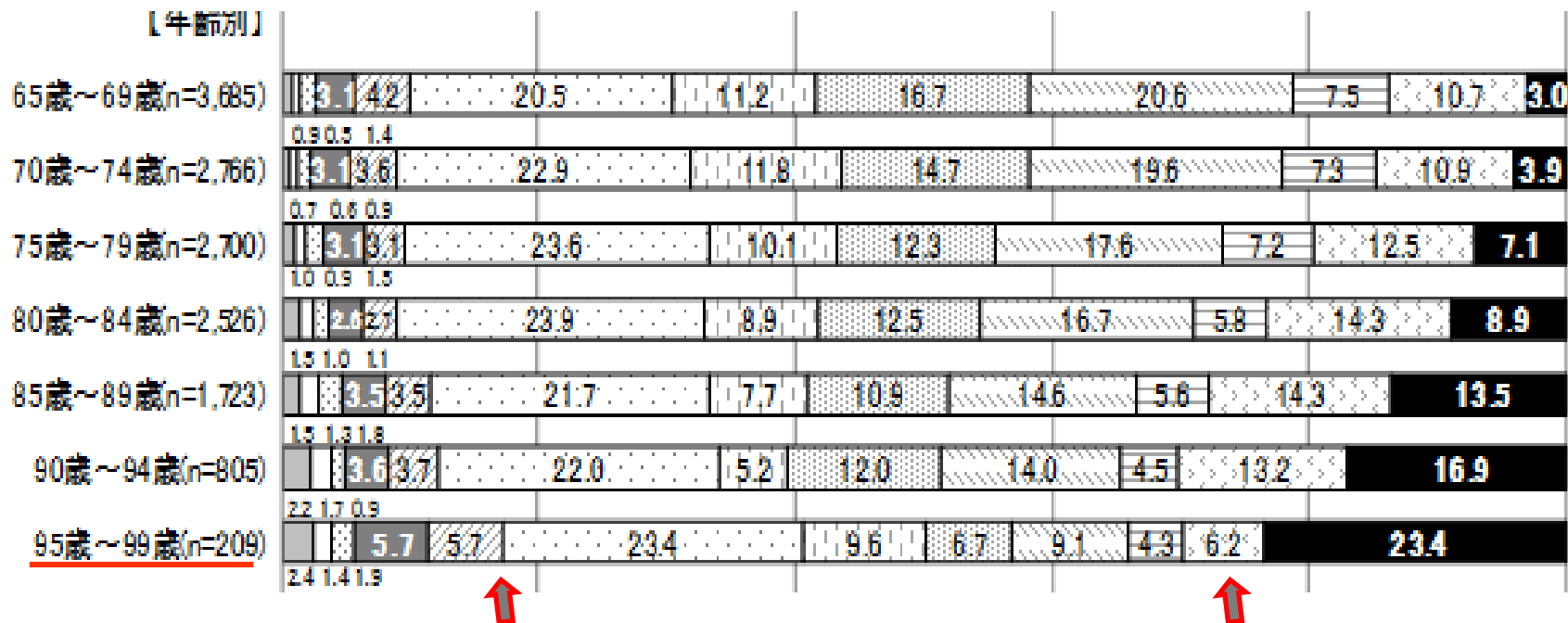
健康や生きがいに繋がるお世話や介護への取り組み
住民は思いと行動を見直し(高齡者養生訓など)
専門職や行政などが支援する

- 1、お世話する人とお世話を受ける人との良好な関係の構築**
仲の良い家族や地域は「お互い様」の思いで助け合える
- 2、お世話される人の行儀作法を良くする働きかけ**
「迷惑をかけたくない」や「世話を受けるのは当然」でなく、
弱くなった自分を受け入れ「お世話になります、ありがとう」
- 3、お世話する人へ、適切な支援体制の整備**
 - ・家族や近隣住民の温かい見守りや出来る範囲での協力
 - ・サービス担当者会議や定期巡回サービスなどの強化
- 4、最後の砦を保障し支援する**
負担を軽減し、少しでも長くお世話や介護が続くよう、
関係する人達が工夫や努力することが大切です。でも、
もし介護が難しくなれば、施設での介護も大丈夫です。

2017年南砺市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

問34 あなたは、現在どの程度幸せですか。年齢層別調査
 (「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、主観的評価)

0点
 1点
 2点
 3点
 4点
 5点
 6点
 7点
 8点
 9点
 10点
 無回答

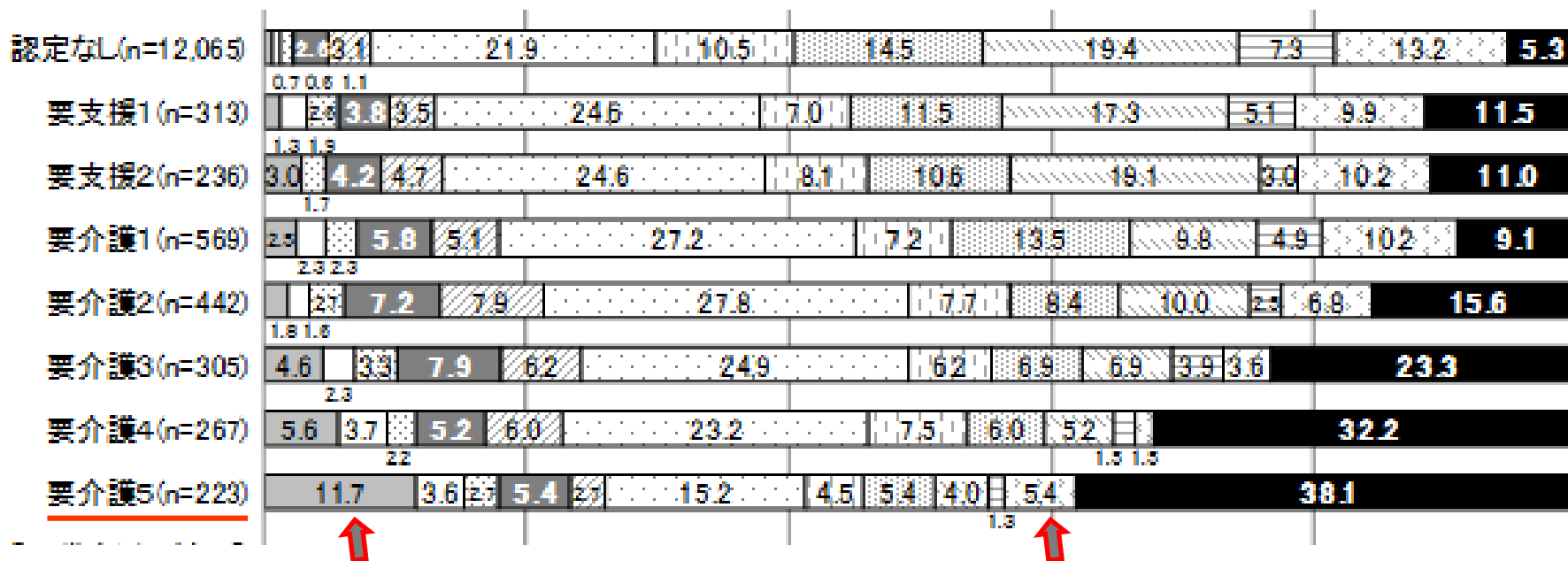


南砺市の高齢者の幸せ度は、65～84歳の層までは大きな変化はないが、85歳以上で普通(10点満点中、5点)以上の幸福感を感じている方は減少傾向となる。特に95歳以上の層では、4点以下が17.1%と増加し、「とても幸せ」の10点が6.2%と低下した。

2017年南砺市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

問34 あなたは、現在どの程度幸せですか。認定状況別調査
 (「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、主観的評価)

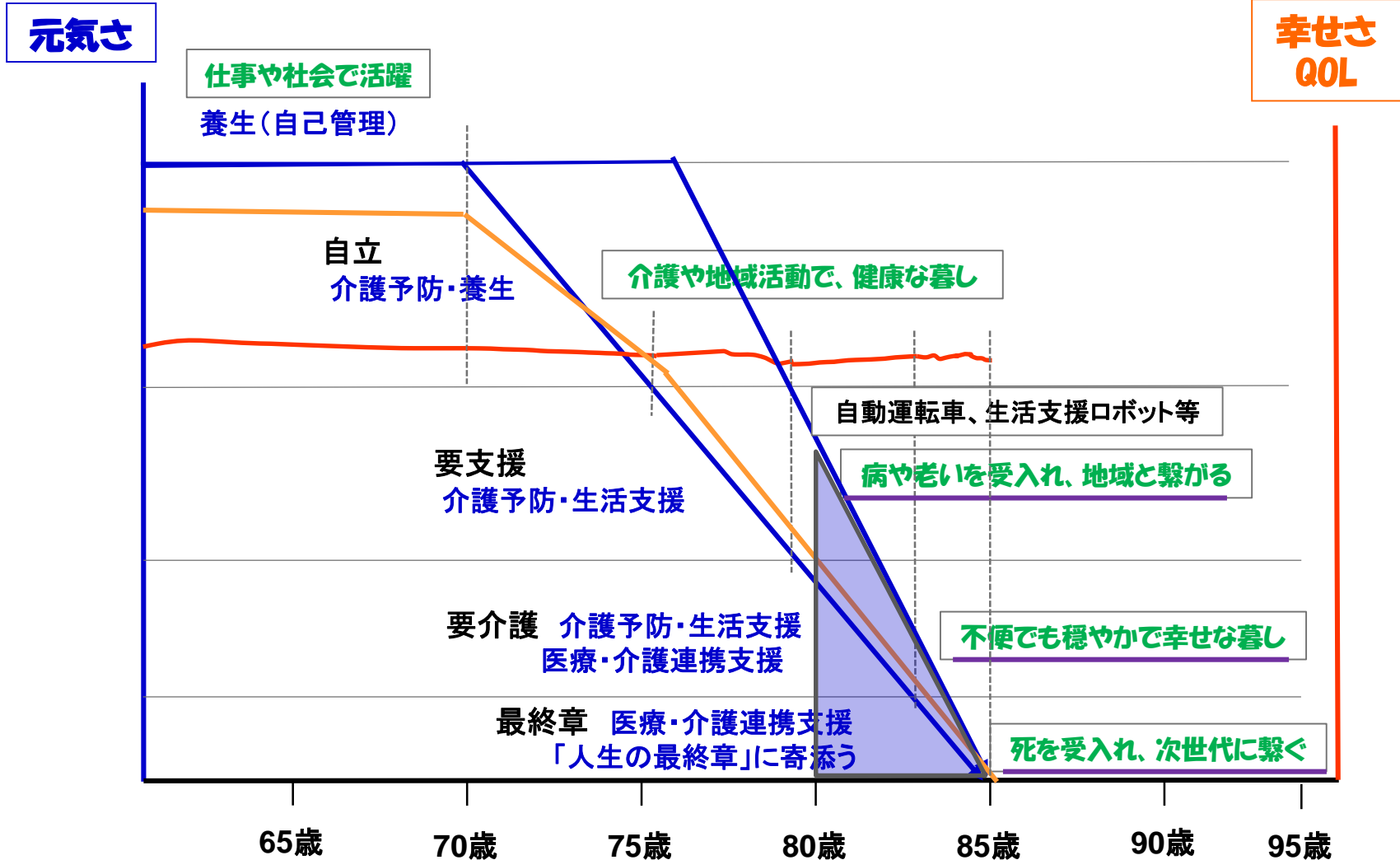
■ 0点 □ 1点 ▨ 2点 ■ 3点 ▩ 4点 □ 5点 □ 6点 ▨ 7点 ▩ 8点 □ 9点 □ 10点 ■ 無回答



普通(10点満点中、5点)以上の幸福感を感じている方は、認定無しでは90%を超すが、要介護度の上昇に伴い、0~4点の不幸せ傾向が増加する。要介護5では「とても不幸」が11.7%、無回答を除けば約20%に昇る。しかし、要介護5でも「とても幸せ」は5.4%、無回答を除けば約10%存在する。

長寿社会へ、解決すべき課題と方向性

住民の心構え・専門職等の支援・支え合う地域共生社会



認知症や障害者等を不幸と考え排除する社会から、地域で共に生きる「**地域共生社会**」へ。住民は、行政・専門職等と現状を共有し「**幸せに暮らせるまちづくり**」に主体的に参加しよう。

「小規模多機能自治」とは

- ・ **小規模** ⇒ 旧小学校単位 =
現在の自治振興会単位
- ・ **多機能** ⇒ 地域の**課題解決に結びつく**多面的な
活動 行事⇒事業・サービス/経営へ
(例) 住民主体で行う介護保険の生活支援
「**通所サービスB**」事業など
- ・ **自治** ⇒ 行政ではなく、**住民自治!**

地方自治 = 団体自治 + 住民自治(車の両輪)

※**団体自治 = 地方公共団体(市役所など)**

いつの間にか、**団体自治に依存的(お客さん)となり、自ら暮す地域への愛着が薄くなり、誇りも持ちにくくなっている**

31地区に小規模多機能自治構築「地域での支え合い 住民自治組織・拠点作り」

「地域づくり・支え合いの福祉」まるごと意見交換会

山野自治振興会 2018年6月16日



住民が支え合うまちづくり（自助・互助）を構築し、安心して暮らせる長寿社会を目標に、小規模多機能自治や地域包括ケアに関する説明や意見交換の場を設ける。2018年3月～7月、地域包括ケア課・南砺で暮らしません課・福祉課・エコビレッジ推進課・市社協が合同で、31自治振興会に出向き、住民と膝詰めで協議を行う。

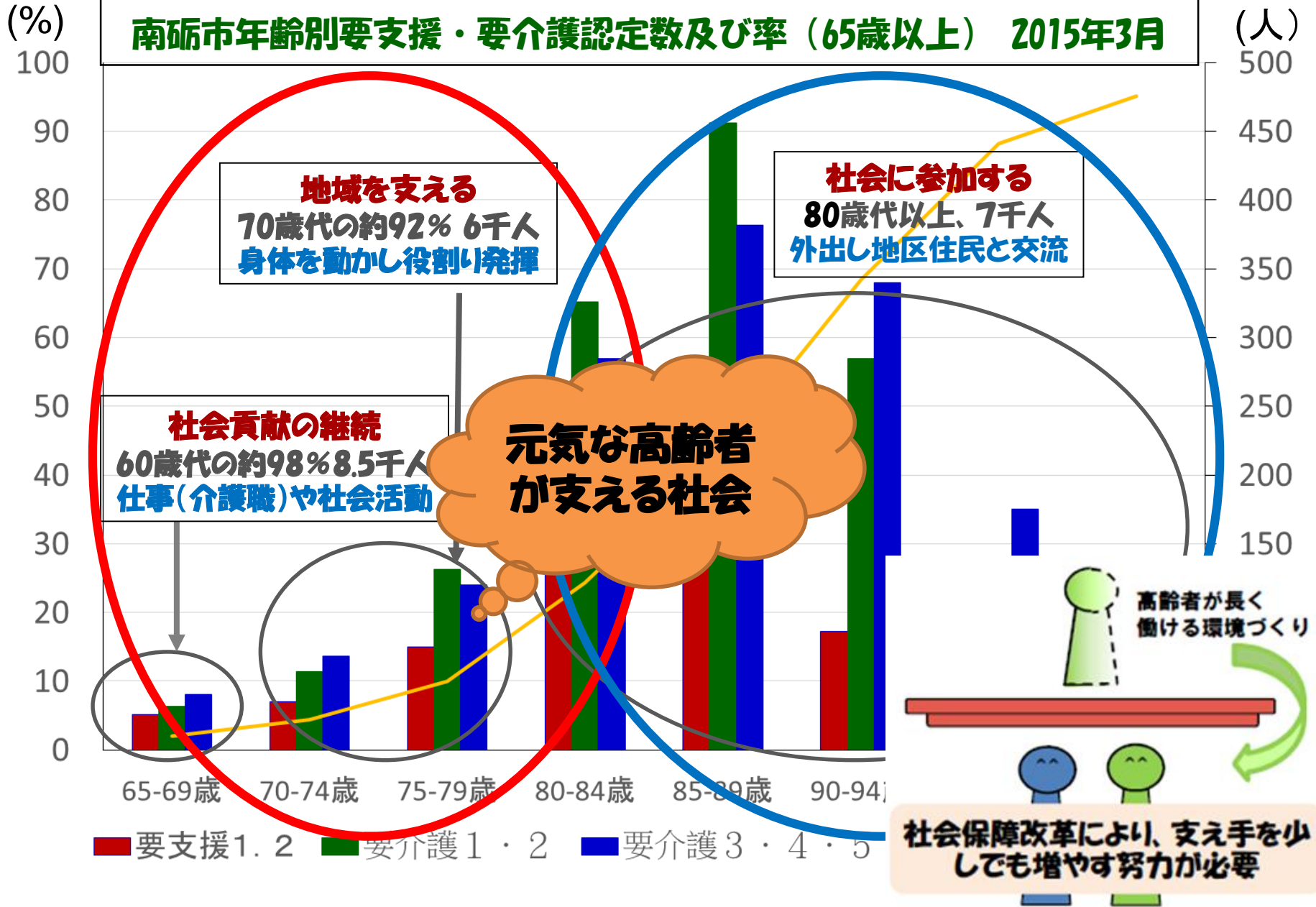
南砺市は、これまでの20年と、これからの20年は違う

	1995年	2005年	2015年	2025年	2035年
計(人)	62,965	54,724	51,454 ▲18%	44,863	38,178 ▲25%
0~14歳	9,334	6,435	5,688 ▲39%	4,368	3,428 ▲39%
15~64歳(A) (生産人口)	39,848	31,261	27,162 ▲31%	22,305	18,714 ▲31%
65歳~ 高齢者率	13,783 21.9%	17,028 31.1%	18,604 36.2% +16%	18,190 40.5%	16,036 42.0% ▲13%
75歳~	5,780	9,813	10,198 +16%	11,470 +12%	11,009 ▲4%
85歳~(B)	1,379	2,937	3,855 +60%	4,444 +15%	5,357 +20%
A÷B	28.9人	10.6人	7.0人	5.0人	3.4人

住民と行政・専門家て不都合な事実の共有が大切、ピンチこそチャンス

高齢者が生活支援・介護予防の支え合いで、健康寿命を延伸

南砺市年齢別要支援・要介護認定数及び率（65歳以上） 2015年3月



第8期 地域医療・地域活性化マイスター養成講座

Community-Campus
Partnership for Health Care



2009年10月；第1期開講、50名
2017年度の9期までで、390名養成

富山大学総合診療部 山城教授



田中南砺市長

第20回 南砺の地域医療包括・ケアを守り育てる会 2016年2月13日



特別講演；講師 南砺市長 田中幹夫
南砺市の地域包括医療・ケア構築に向けて
～5つのまちづくり規範～

話題提供

- ・なんと住民マイスターの会の活動
- ・マイスター五箇山の会の活動
- ・地域包括ケアステーションの活動
- ・介護職員人材育成の現状
- ・生活支援モデル事業の状況

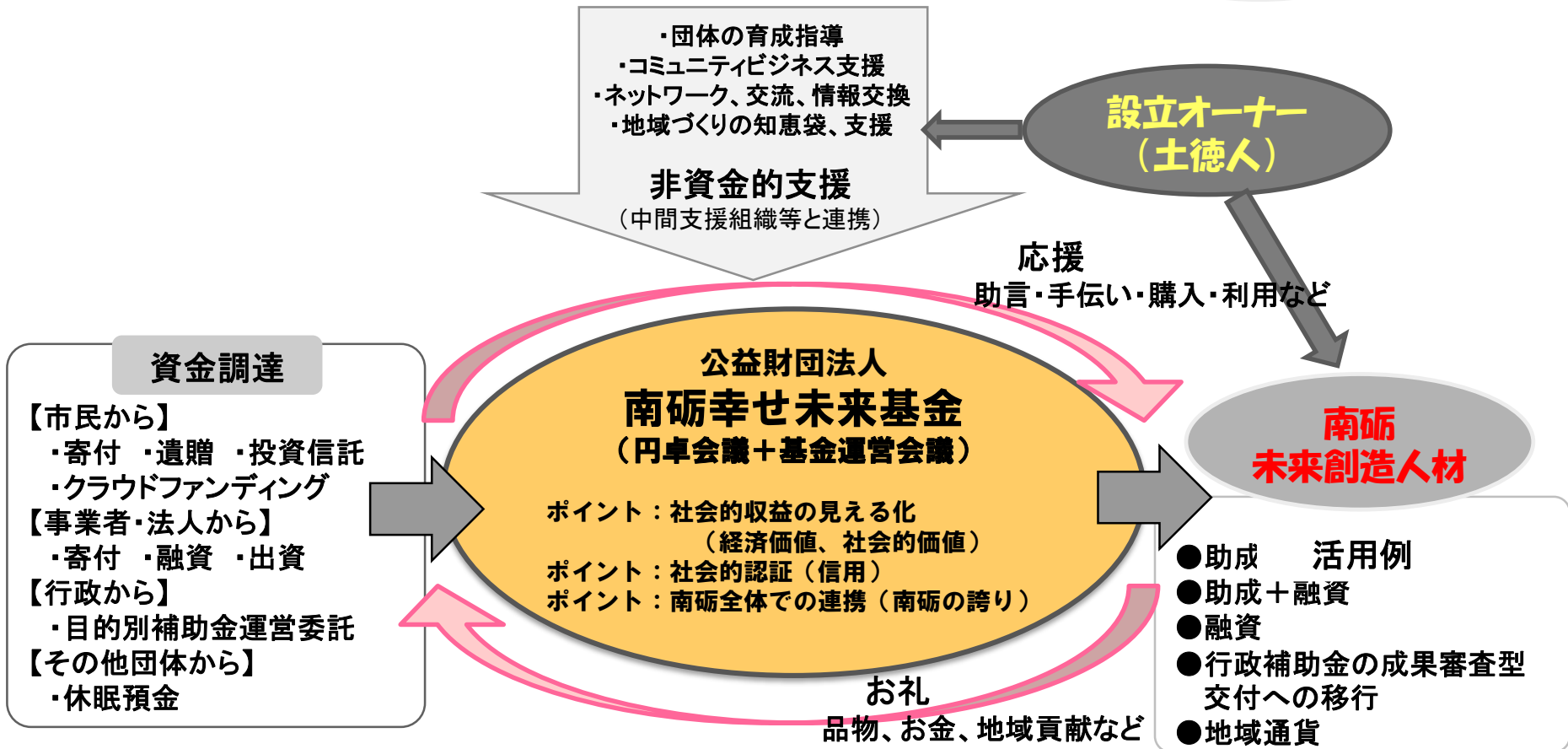
会場：ア・ミュール、参加者約100名

住民・行政・専門職等が支え合うまちづくり 「地域での支え合い・活動人材と支援」

「南砺幸せ未来基金」を活用したひと・まちづくりの概要

地域の思いを地域の知恵と連携と資金で 自ら実現する仕組みづくり

人や自然、文化などの地域資源を活用しながら、若者のやる気に溢れる活動や地域が抱える諸課題を解決する活動などを応援することで、地域を元気にし、未来の南砺を創るための仕組みとして基金を活用する。
基金の運営を通し、資金だけでなく、人と人を繋ぐことで、支え合う地域の力を育てる。



地域の目線で富山を伝える

移住が移住呼ぶ



文楽会館移住した稲巻の4家族が大人・子どもで

相倉合掌造り集落 (南砺)

子育て世代集い活気

緑の山々に囲まれた庄園。石灯籠、父の手に里見れ「南砺市相倉・土市」のほりた。2人が中心になって進められた集落の空き家には移住者募集のポスターが貼られて、多くの子育て世代が移住を希望する。相倉合掌造り集落で暮らしを始める移住者募集のポスターが、7月下旬に相倉集落の空き家には貼られた。

移住者が2年前に相倉市から移住してきて相倉集落に暮らすようになった。同世代が3人の子育て世代が集まり、子育て世代の集い活動が盛んになった。子育て世代の集い活動が盛んになった。子育て世代の集い活動が盛んになった。



「地方削減論」の衝撃は大きかった。危機感を覚えたところから、移住の呼びかけが始まった。一番重要なのは、移住者が移住先で生活できる環境を整えることだ。移住者が移住先で生活できる環境を整えることだ。移住者が移住先で生活できる環境を整えることだ。

小田切明治大農学部教授に聞く



小田切 明治 大農学部教授
 小田切 明治 大農学部教授
 小田切 明治 大農学部教授

諦めを拭い誇り再建

の情熱や、あんなの子どもが帰った。その足元を歩いたのが、田園回帰の第一歩だ。移住者が移住先で生活できる環境を整えることだ。移住者が移住先で生活できる環境を整えることだ。移住者が移住先で生活できる環境を整えることだ。

「自助・互助」や「住民自治」は、専門職の不足や行政機能の縮小による、住民への役割の押しつけではありません。
自分や地域の課題を、自分事として解決する取組みそのものが、住民に健康寿命と生甲斐を与え、結果として愛着があり誇れる地域づくりに繋がります。

住民が地域の歴史と文化に誇りを持ち、住民どおしの繋がりで地域への愛着と誇りを高め、田園回帰で多くの移住者を受け入れる。